

平成 27 年度 学校関係者評価報告書

大阪市立南百済小学校 学校協議会

1 総括についての評価

丁寧な説明を受け、学校が真摯に教育活動に取り組んでいることがよくわかった。自己評価結果の各視点及び取組内容においてA判定が増えたこと、ホームページや各種便りで学校のいろいろな情報を発信していることについては評価できる。また、ICT機器を積極的に活用していることや読書を習慣化しようと取り組んでいることも素晴らしい。算数科を研究教科として、基礎・基本の確実な定着を目指しているのもよい。今後は、基本的な生活が習慣化するよう、保護者と協力してさらに進めてほしい。あいさつの習慣化、親子の対話、朝食の喫食については、特に連携が不可欠である。

2 年度目標ごとの評価

年度目標：【学力の向上】

- ① 本年度末の校内アンケートにおける「授業では、感じたことや考えたことを発表したりしている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合を、前年度よりも向上させる。
(カリキュラム改革関連)
- ② 本年度末の校内アンケートにおける「毎日、家庭学習をしている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合を、前年度よりも向上させる。
(カリキュラム改革関連)
- ③ 観察・実験を含む体験的な授業を指導計画どおりに実践し、ICTを活用した授業の割合を前年度より向上させる。
(カリキュラム改革関連)
- ① 特に、低・中学年においてよい傾向が見られた。ペアやグループでの学習をさらに活性化させて、思考力・表現力を育んでほしい。
- ② 家庭学習が習慣化してきたことは評価できる。読書が習慣化してきたのもよい傾向である。
- ③ 実験・観察等の科学的体験を充実しつつ、ICT機器の活用を積極的に進めている。今後は、タブレット端末を効果的に活用してほしい。

年度目標：【道徳心・社会性の育成】

- ① 本年度の校内調査において学校で認知したいじめについて、解消に向けて対応している割合を100%にする。
(カリキュラム改革関連)
- ② 本年度の校内調査において学校で把握した児童虐待の個々のケースについて、解消に向けて対応している割合を100%にする。
(カリキュラム改革関連)
- ③ 本年度末の校内アンケートにおける「自分の良いところをクラスのみんなは知ってくれる」の項目について、「当てはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合を、前年度よりも向上させる。
(カリキュラム改革関連)
- ① 学期毎に児童へのアンケート調査を実施し、その結果をもとに学校は的確に対応できている。継続している事例についてはしっかりと見守ってほしい。
- ② 学校は児童の登校時の様子を複数の職員で見守るなど、的確に対応している。関係諸機関との連携もしっかりとできている。地域連絡会が毎学期定例化したのも評価できる。地域の安全見守り隊「まもるんジャー」の皆さんの協力も有難い。
- ③ 進捗状況がA評価になったので、さらに自尊感情を高める取組を進めてほしい。

年度目標：【健康・体力の保持増進】

- ① 本年度実施する「手洗い、うがい強調週間」における手洗い・うがいの実施率を前年度よりも向上させる。
(カリキュラム改革関連)
 - ② 平成27年度の全国体力・運動能力・運動週間調査におけるソフトボール投げの平均の記録を前年度より向上させる取組を行う。
(カリキュラム改革関連)
 - ③ 本年度末の校内アンケートにおける「朝食を毎日たべていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえばあてはまる）」と答える児童の割合を、前年度よりも向上させる。
(カリキュラム改革関連)
- ① 学校は強調習慣を設定し、積極的に取り組んでいる。さらに習慣化するように取組を進めてほしい。
 - ② ソフトボール投げにおいてよい傾向が見られた学年もあった。全国と比較しても遜色ないよう、投力向上を目指す取組をさらに進めてほしい。
 - ③ 全体に占める割合は少くないが、依然、朝食を食べてこない児童がいるのが気にかかる。各種便りで保護者へ呼びかけるとともに、栄養推進事業等の取組等をさらに進めてほしい。

3 今後の学校運営についての意見

協議会は学校との信頼関係をしっかりと構築し、さまざまな情報を共有してきた。厳正かつ建設的に意見交流を深めてきたので、上記のような大きな成果が得られた。今後も学校の特色を生かしつつ、固定概念を打ち破るような気概を持って学校づくりを進めてほしい。

これから時代、プレゼンテーション力が必要になる。今後もペアトークやグループ討論を活性化させて、表現力の育成を図ってほしい。そして、その基盤となる読解力を身に付けるためにも、読書活動の習慣化をさらに進めてほしい。図書ボランティアによる読み聞かせを充実させつつ、図書室や学級文庫の蔵書を充実させてほしい。若手教員が増えつつあると聞くので、ベテラン教員と協同しながら、指導力の向上も目指してほしい。

